

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200134		
法人名	医療法人社団 川越伊藤医院		
事業所名	グループホーム かわごえ		
所在地	三重郡川越町大字豊田299番地1		
自己評価作成日	平成 25年 11月 15日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472200134-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25年 12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内の医療が直ちに利用でき、医療・看護の管理が充実していること。介護者も経験長く、入居者の介護ランクが徐々に高くなったとしても安心して暮らせるよう支援している。入居者も最少数(5人)であり、常時目の届く範囲で利用者と職員が共に過ごし、持てる力を維持できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内には同法人の医療・老人保健施設があり、医療・介護が充実された少人数(5人)の事業所である。開設13年目であり、三重県で最初の5箇所の事業所のうちの一つである。隣には職員専用の保育所があり、窓からは子どもの声が聞こえ利用者と一体化している。職員は利用者を自分の親・家族と、思い思われる様に、また、いつまでも生き生きと、いつも一緒に笑顔が絶えない様、利用者を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とリビングに理念を掲示し、その人がやれる事を伸ばし笑顔で暮らせるように、利用者と共に生活を楽しんでいる。	季節の飾り物を理念紙面上に貼り、玄関・リビングに常に意識出来るように掲示し、笑顔で明るい生活を目差す事を心掛けている。職員はその場その状況に応じて理念を振り返る機会を作り共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体の川越伊藤医院として自治会に所属している。ご近所の方が畑で育てたミニトマトを頂いたりする。	豊田地区のサロンに毎月参加して、地域住民と交流している。また、苑内の草取りで挨拶を交わし、畑仕事の住民から作物を頂く事もある。職員の保育園児も時々遊びに来てお話を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場・地域包括・民生委員・区長・老人クラブ会長・ご家族等出席いただき、現状報告や情報交換している。	市担当者・地域包括センター・民生委員・区長・老人倶楽部会長・家族出席の下、開催され、意見・助言・情報交換が数多くされているが、開催は年1回にとどまっている。	事業所の催し・豊田地区のサロン等の参加時を利用し、家族に利用者が参加している様子を見て頂き、参加している地域住民・民生委員等に意見・感想を聞くという気軽な会議の機会を作る事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町民保険課から社協ニュースレターを持ってきて頂いたり、書類提出時や電話などで分からないことを教えて頂いている。隔月の介護保険サービス事業者間会議に出席し情報を得ている。	町担当者と、2ヵ月毎の介護保険サービス事業者会議に出席時、また、更新書類等の提出に向いた時に、挨拶がてら情報収集に努めている。代表も医療、介護の情報、提案等を意見交換して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠をしない介護を行っている。転倒の危険性がある場合、安全でより良いケアが出来るようご家族と具体的な方法話し合い実践している。	常に利用者とコミュニケーションを築く為、見守りに心掛けている。職員会議で3ヶ月毎にヒヤリハットを用いて拘束をしないケアを検討している。また、気がついた時は、言葉の拘束を含めてその場で職員間で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉かけひとつでも虐待になり得ることを話し合い、一人ひとりの尊厳を守る事に気を配っている。日々楽しく気持ちよく暮らして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一緒に書類を見ながら丁寧に説明し、都度疑問点をお尋ねし理解を得ている。ご意見などあればいつでも何でもお話しくださるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られる都度、日々のご様子をお伝えしご意見やご要望等を伺っている。電話でお伺いすることもある。	面会日にリビングで状況報告を兼ねて、また、話しにくい時は居室で意見・要望を聞いている。その他、連絡電話でも必ず意見・要望を聞く様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や職員会議にて意見を出してもらっている。申し送りノートを作り、思ったことを自由に書いてもらっている。	3ヶ月毎の職員会議の場で意見を話し合ったり、また、好きな事、思いついた事を記入出来る申し送りノートがあり、毎日職員は連絡を兼ねて記入し共有している。浴槽が深く出入りが困難の為木製座椅子を、転倒防止の為浴槽内の手すり、室内乾燥防止の為、空調管理をまめにする等、利用者の安全面を考えた提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の勉強会に参加させて頂くこともあり、困った時など意見を聞かせて頂くなど取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくりと穏やかにご本人の思いを聴くことから始めている。「人生最期にいい人に巡り合ったわあ」と言って下さる利用者もあり、日々楽しく過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先ず、ご家族のお気持ちや考え方をお伺いした上で、当ホームの関わり方を相談させて頂き遠慮なく何でも話して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでのご様子や思い等を聞かせて頂くことにより、すぐ必要とされる支援について職員間で話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	TVの旅行やグルメ番組を「おいしそうねえ」と話しながら観たり、ボール遊びや軽体操で共に汗をかいたり笑ったり、懐かしい童謡を歌いながら手あそびして共に生活を楽しんでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のご様子を来訪時や電話でお伝えしご家族の思いを伺い相談させてもらいながら、それを他職員にも伝え共有し、より良い介護を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前居たケアハウスの方や親戚の方が面会に来てくれたり、法事で家へ帰られたりする。いつでも来て頂けるよう働きかけている。	以前の職場の友人・知人が訪ねてきたり、毎月出掛ける豊田地区のサロンでの交流、暑中見舞い・年賀状の投函等の支援をしている。家族から生活暦を聞き、馴染みの人・場所へと声掛け支援も行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで一つのボールを転がして遊ぶと、仲良くお互いに取りやすいように気配りされているのがよく分かる。食器を洗ってくれる利用者に手を上げてお礼を伝えたり、鼻をほじるなど注意していたり、寒くない？と気遣ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所されても挨拶に来られ、今はこんな様子ですと話しに来てくださるご家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	こうしたいとなかなか話して頂けない方には表情やしぐさなどから思いを汲み取るようにしている。無理強いや押し付けにならないよう配慮している。	昔話等日頃の会話の中で、また、入浴・レクリエーション時に把握に努めている。時には表情や行動などからも、好きな事・嫌いな事などを掴む事もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりやお人柄、考え方などどんな事でも聞かせて頂けるよう働きかけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体力的なことは一人ひとり差があり日によって体調も変化するので、その日その日に合わせて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合い、食事面では栄養士に、リハビリ面では理学療法士に相談し、ご本人やご家族の意見を加味して計画しケアマネで集約作成している。	家族から意見・要望を聞き、3ヶ月毎に職員会議の場でモニタリングを行ない見直しをしている。利用者の身体状況に応じて、理学療法士・栄養士も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づくたび介護経過に記録し、問題が生じた場合はすぐに職員間で話し合う。3カ月ごとのケアプラン見直し会議で情報交換話し合い、計画に盛り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わるご様子やご家族の要望を傾聴し、その日その方に合わせた対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊田公民館のサロンに参加させていただき、歌やゲームや音楽や軽体操、茶話会など地域のご老人と交流を楽しんだり、系列の老健の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内の法人の医師がかかりつけ医としてほぼ毎日来訪しているので安心できる。体調により内科や皮膚科、整形外科等受診することもある。	入居後、家族と相談の上、全利用者が協力医に変更している。協力医は併設の医院であり、夜間も救急医療体制が整っている。他診療科への受診は、家族と共に付き添い同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師が居るうえ法人の医師・看護師が同敷地内に常駐しているので、即時に対応できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院が近づくと、様子を見に会いに行ったり電話にて担当看護師から体調や留意点などを伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先ず、入居の際に意向を伺っている。重度化に伴い当ホームでの看取りを希望される場合、指針を説明させて頂き同意のもと併設法人医師、看護師と共同する。	入居時に看取りの指針で説明し、その状況に陥った場合に再度家族と話し合い、同意書を交わしている。職員も家族と同様に、最後まで何か出来る事はないかと常に考え、支援に取り組んでいる。開設以来ターミナルの経験は2名ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本院併設のため、急変発生時すぐに上申し対応できる。誤嚥や詰まった場合のタッピングなど練習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの防災訓練を年2回行っている。運営推進会議時などに、民生委員や区長さんに協力をお願いしている。	消防署立会い指導の下、年2回、消火・通報・避難の訓練を行っており、備蓄もある。	年2回の防災訓練を基本として、火災訓練以外に地震(津波対策)も想定に、職員だけの訓練や机上訓練等、開催機会を増やす事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の都合や価値観を押し付けないよう、気付かないうちに嫌な思いをさせることのないように、一人ひとりの気持ちを大切にしている。	職員の都合・勝手に押し付け支援をしないように気を付け、利用者一人ひとりの気持ちを大切にすることに心掛けている。恥ずかしい事は他人の目に触れないようにそっと声掛けし、居室・トイレに誘導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解できず会話がかみ合わない方には、しぐさや表情で気持ちを汲み取るようにしている。昔話など色々な会話から信頼関係が出来、思いを聞かせていただけるようになってきている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分に合わせて、ご本人のペースを大切に一日を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着脱衣や洗面動作など全く分からない方や、痰が多く10分近く口をすすぐ方や、とろみ化粧水を持っている方など様々だが、きれいにすると笑顔が見られる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託業者がするが、食べやすく刻んだり配膳と一緒にする。食器拭きは進んでやって頂いている。	献立・調理は委託しており、ご飯のみ職員が炊飯しているが、利用者に合わせた刻み食等支援している。利用者と一緒に行動やおやつ作りも楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スプーンが裏返りながらもきれいに全部食される方、ゆっくりゆっくり食される方、食べることが全く分からない方など様々だが、体調不良の時などは栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお茶、朝晩の歯みがき、昼食後の義歯洗浄など声かけ見守りや介助にて口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴えない利用者の場合、おやつ後や食後にトイレ誘導している。気温や素振りに注意することにより、失禁が減少している。	表情・行動を見て、また、食後・おやつの時間を見計らって声掛けし、トイレに誘導している。トイレ誘導を多くした結果、失禁が減少した利用者も居る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取を心がけ、軽体操や入浴時の腹部マッサージ等で自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はあるが、ご本人の気分や体調に合わせて変更し、気分良く入浴して頂いている。	入浴日(月、金曜日)と足浴日(水、日曜日)が決められているが、希望があればいつでも入浴できる。柚子・菖蒲等の季節湯もあり、普段は入浴剤を利用し温泉気分が楽しめる。入浴を嫌がる方には、なだめたりして入浴を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、体調に合わせて休みたい時に横になって頂く。夜の就寝もご本人に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効や副作用に目を通し、飲みこまれたか確認させてもらっている。日々体調の変化に気をつけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の配膳やおやつ作り、食器拭きなど出来る方に手伝って頂いている。好きなフルーツを差し入れてもらい皆でよばれたり、居室でご家族とお寿司を食べながら談話される方もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地区の豊田公民館のサロンに出かけ、参加された地域の方々や音楽やゲーム、茶話会などで交流している。お天気の良い日には、ポーチで日向ぼっこを楽しんでいる。	毎月、豊田地区のふれあいサロンに出掛け、歌・ゲーム・体操等をして外出を楽しんでいる。時には近くの公園を散歩したり、隣の老人保健施設の行事にも参加し、地域の方々や交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の管理はしておらず、今は所持されている利用者の方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	消しゴムはんこで朝顔の暑中見舞いの葉書を送った。そろそろ年賀状の絵柄を一緒に考えて書いてゆきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けて外を眺めると機嫌がよい方、寒いで閉めてと言われる方など様々だが、一緒に季節の折り紙や飾り切りをして季節ごとの壁飾りを変えると「ええなあ」「きれいねえ」と笑顔が見られる。	季節の花が置かれ、壁にも季節の切り絵を飾り、いつも季節感が味わえるよう工夫されている。利用者が自由にくつろげるソファがあり、乾燥防止などの空調管理もされていて、居心地良い共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングで、計算プリントをする人、ぬり絵をする人、数字探しをする人、見ているのが好きな人など様々だが仲良く過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と一緒に写した思い出の写真やぬいぐるみを飾られたり、TVやダンスなど使い慣れた物や必要な物をもって来られて使いやすいうように置いてある。	ベッド・クローゼット・洗面台があり、利用者馴染みの家具(テレビ、椅子等)、ぬいぐるみ、家族の写真等が持ち込まれ、出来るだけ以前の生活と変わらぬよう居心地良く過ごせる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手を貸しすぎないように見守り、これは出来ないと決めつけなくてやって頂くと、昨日できなかった事が今日は出来たりすると喜びです。		